



令和2年11月12日

第133回社会保障審議会医療保険部会

委員提出資料3

# 医療保険制度改革に向けて (意見)

令和2年11月12日  
公益社団法人 日本薬剤師会

## 1. 高齢者の窓口負担について

- ・高齢者の窓口負担の増加は、患者の受診控えを引き起こし、重症化につながる懸念される。
- ・特に高齢者は罹患する疾病も多く、複数科、長期、頻回受診等の傾向が大きく、窓口負担が増えると若年世代と比べて、大きく負担感が増す。
- ・窓口負担の見直しにあたっては、高齢者の受診の特性や収入・所得の状況や高齢者の生活等に十分配慮し、慎重な対応が必要。

## 2. 薬剤自己負担の導入について

- ・本来、国民自ら判断し使用する市販薬と保険医療上必要な医療の提供に用いる医薬品は、類似した成分が含まれていても、その使用に至る状況が異なるものであり、市販薬として販売されていることのみを以って、保険上の取扱いを変えることは理解し難い。
- ・保険医療上必要な医薬品が保険給付されることが、国民の安心につながる。
- ・「必要な医療、医薬品が保険給付される」という我が国の医療保険制度の原則に沿った対応が重要。

3. 予防・健康づくりについて —健康寿命の延伸—
  - ・人生100年時代の安心の基盤は健康。生涯を通じて健やかに過ごすためには予防・健康づくりが重要であり、かかりつけ薬剤師によるセルフケア、セルフメディケーションの支援と併せて、セルフケアで必要な医薬品へのアクセスの確保が必要。
  
4. 新型コロナウイルス感染症について
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、患者にとって必要な受診であるにもかかわらず受診控えが生じてしまっている。
  - ・今後も新型コロナウイルス感染症の長期化が見込まれる中、さらなる受診控えが生じることがなく、国民が安心して医療を受けられ、医薬品が使用できる環境の確保につながるような政策が必要。



# 参考資料

# 薬剤師・薬局の役割



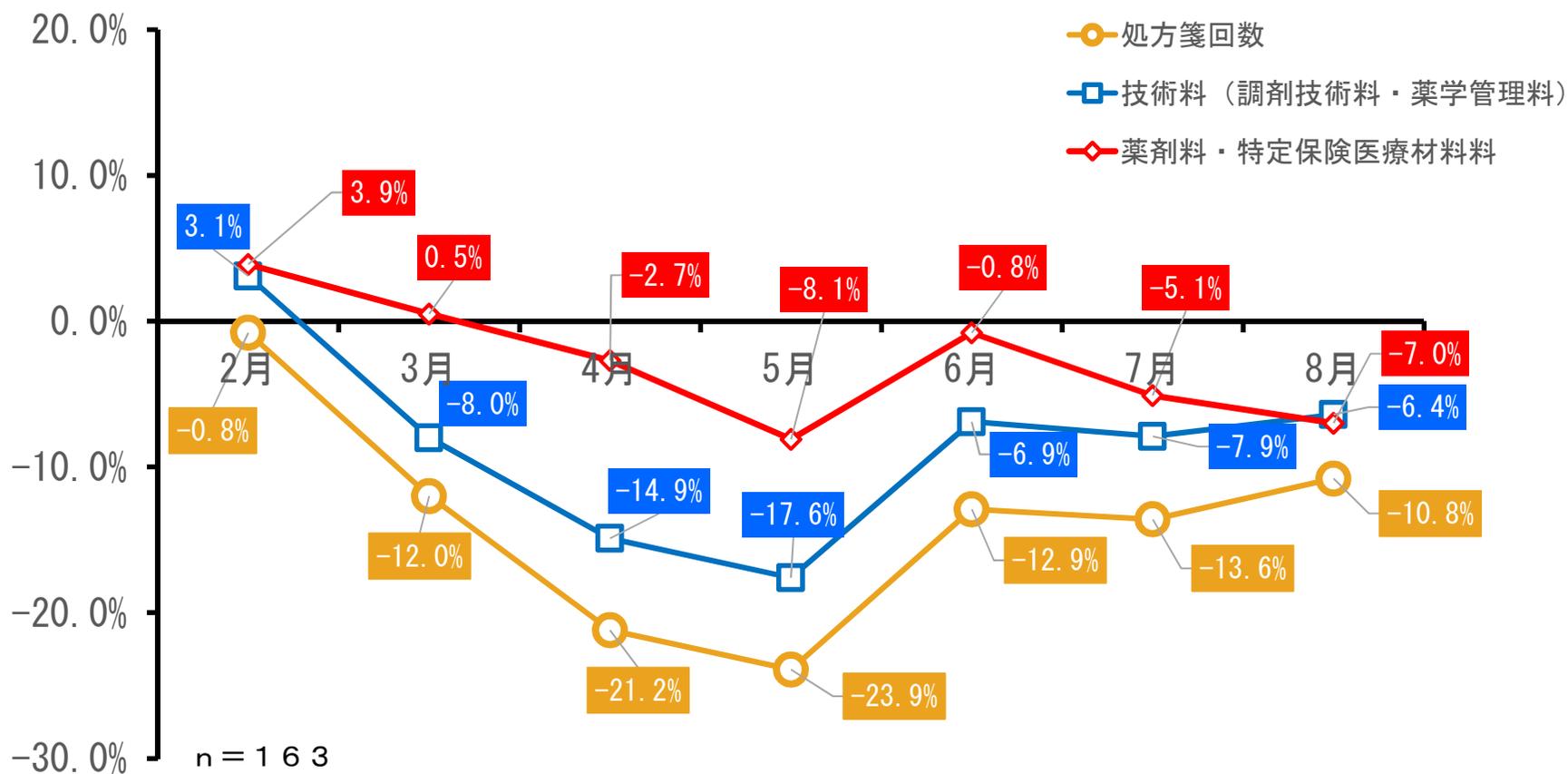
- 国民に適切な医薬品を的確に提供できる体制の確保
  - ・患者の服薬情報に関する一元的・継続的な把握と薬学的管理・指導
- 地域包括ケアシステムにおける安全な薬物治療の確保に向けて
  - ・多職種連携、チーム医療への貢献
  - ・医師の働き方改革の実現に向けた連携・支援
- 医薬品適正使用のための各種方策
  - ・残薬解消、ポリファーマシーの抑制、後発医薬品等の使用促進、相互作用や副作用の防止等
- 国民自らによる疾病予防・健康管理の推進
  - ・セルフケア、セルフメディケーションの支援
  - ・健康サポート機能を持った薬局の活用
  - ・地域住民に対するOTC医薬品の適切な提供
- 国民皆保険の堅持
  - ・国民が安心して最適な医療を受けられる環境の確保

# 新型コロナウイルス感染症による薬局経営への影響



(調査の主な結果)

- ・ 8月分の処方箋回数（患者数）は前年同月比 **10.8%減**
- ・ 調剤報酬の技術料<sup>注1</sup>は **同6.4%減**、薬剤料<sup>注2</sup>は **同7.0%減**



注1) 本調査は5月から継続的に実施しているもの。

注2) 本調査は今後も実施予定。